

仏様のおはなし新シリーズ第52集その1 「生きる?生かされる?」

私たちは自分で、自分の力で、「生きている」と考えています。そう思えばこそ一日一日に生きがいを感じて頑張ることができているのかも知れません。しかしよく考えてみますと生きるということについて、私自身はどれほどの力があるのでしょうか。

「死」に対して、生きようとする私の意志はどれほどの役に立つのでしょうか。九十年、百年生きてこられた方でも、最後の死に臨んでは自分の意志は何のはたらきにもならないようです。思わざるときに突然の事故で死ぬ人もあれば、死にたくても死ぬことの出来ぬ人もいるのです。

オリンピックの競泳やマラソンなどの競技を見ても、最後のゴールを目指して、死力をふりしぼって記録に挑戦する。

そのことから考えれば九十年、百年と長い人生を生き抜いて来た方は最後の一日、いや、一時間位は自分の意志で、死をひきのばすことが出来てもよいのではないのでしょうか。ところがそれが全く出来ません。

仏教は因縁の道理を明らかにします。生きることにも因縁であれば、死ぬことも因縁であると説きます。どんなに生きてたくても生きる因縁がなくなれば死なねばならないし、死にたくても生きる因縁があれば死ぬことは出来ないのです。

このように考えれば自分で生きていると思っていることは、思い上がりであって、自分の力ではなくいろいろな因縁によって「生かされている」のです。

因縁によっていかされている生命であれば、生きていることの確認できるのは「今」だけです。仏教は今日という日、今という時を大事にして全力をつくして生きることを教えてくれるのです。

